



校長室から

甘利 尚之

12月 2日 (木) No.4

なかよし月間の取り組み

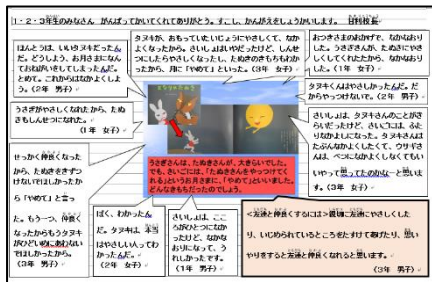
塩尻小学校でも、11月は「なかよし月間」ということで、特に、人権教育を意識した取り組みを行う期間としています。「友達との関わり方や自分の人権感覚について振り返る機会をとり、お互いに安心感をもって学校生活が送れるような態度を養う」ことが目的です。



取り組みの内容にはいくつかありますが、左の写真

は「なかよしの木」の取り組みです。春に、「なりたい自分」の種をまき、秋、「友達にしてもらったうれしかったこと」「友達のよいところ」の花を咲かせていくようにしています。ある6年生児童は、「1年生たちが遊んでく

れた6年生に、『ありがとう』と言って、6年生も温かい心になってきた。また一緒に遊びたいなど思い、(このようなことで)仲良くなれるんだなと思いました。」と記入していました。実体験を通して、仲良くなるために大切なことを学んでいる様子が伝わってきました。



また、新型コロナウイルスの感染状況から、最近やっと児童を集めてのお話ができるようになり、低学年は「となりのたぬき」、高学年は「わたしのいもうと」の絵本を使って、校長講話を行いました。話の中で、それぞれ問いかけをし、子どもたち一人ひとりに考えを書いてもらいました。その中から、特徴的なものを抜き出し、左の写真のようにまとめ、掲示板等に貼り出しました。



子どもたちは純粋に「なかよし」を目指しています。しかし、高学年になるにつれ、その難しさにも気が付いてきます。5年生児童は、「相手を想う気持ちや違いを認め合うことができなかつたらいじめがおこってしまうんだなと思いました」と感想を書いていました。そう感じている子ども

たちに、周りの大人はどんな姿を見せることができるだろうか、何ができるのだろうか、しっかり考えていかななくてはならないと思いました。